



5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4



云誰曰果也終は三道人の集りしなり
郭書の一あり昨は三別の人性ハ種族氏ハ
本年がしてあるの幕下より居し忠功なり
ありといふも人生の字違へて佛心なり
へすあぐり名利の病と云ふもよくある
實際の如くともく大愚道雲の如く明の
遠風漢より依て万庵を著しありくその
中よりぐり昨の位有るかといふ
一冊の書なり其全對經一書と云ふ
ありといふも終文諸録の玄奥と諸問と
変授とあり言下よりありきそを化導す男女

新しう寸つ升し明徳元年し未六月廿六日由れ冠
 竜蛇とて遷化とる行年七十七歳臘二十六
 年也交中の大親し依く七部ノ書とほはるも
 中し書ハ神機あじさりののとあつめく未也
 ノ宿生とすし人づるにうさうとて然らむ
 不也いあし停之う流して世にゆらふとて
 云余

因果図終す一目標

- 一 親ふくまの地り教ふるも
- 二 隣地流る女死して涙のやけさるも
- 三 伊勢の神文利をるも
- 四 援とま文と神機とて得あつるも
- 五 志ゆ地りあてまといふも
- 六 るとくさるうつれも
- 七 法師のるふ来るも
- 八 妾と垢てまゝ然とのけり女屋がも
- 九 生得の功力ふるも
- 十 庭多こころとてあつるも
- 十一 赤子のまをまといふも

二五



四

72

六

といふときがきて死なり。孫人きとくを神文の
 神文（う）とふ。おのちもやうにありととを
 神文のゆゑらあふ。さき子伊（い）あゝとて。又次の年
 文一（う）さき。さきんめ乃きり。とれり。三人乃子
 乃か死て。かろくまげと。ちりきり。一ありて。死
 浮（う）のふらと。或（う）は。ちりきりて。げと。人の子。いんち
 ぬと。なり。あふ二人。死て。片一人のうてあり。新（う）
 人。さきふ。わら。と。ちりきり。と。ちりきり。一ありて。
 おう。死。さき。と。と。ちりきり。と。ちりきり。と。ちりきり。と。
 ちりきり。と。ちりきり。と。ちりきり。と。ちりきり。と。
 神文のゆゑ。ちりきり。と。ちりきり。と。ちりきり。と。
 へ。福。の。人。さき。と。ちりきり。と。ちりきり。と。

つせのいよみ所



ともやがて死なりがてあふめやうあふりあけりこ
 ろがうらりころとまてころるうつあふれいころい
 出くるあふけ入てころるいあふれいあふれい
 あふれいあふれいあふれいあふれいあふれいあふれい
 のふれいあふれいあふれいあふれいあふれいあふれい
 死なり。ころるあふれいあふれいあふれいあふれい
 うーあふれいあふれいあふれい

七 注 けりあふれいあふれいあふれい

こもてあふれいあふれいあふれいあふれいあふれい
 里うあふれいあふれいあふれいあふれいあふれい
 このあふれいあふれいあふれいあふれいあふれい
 ううあふれいあふれいあふれいあふれいあふれい

[illegible][illegible]

うゝ事く 海路の念より とうとうやうと けいこうと
あり 寛永十七年の事も ながつ 病人の ことなる ねど
死なねば 様乃らり とうとう へん 唐澤とらひ びふ
念より ても しいて とうとう へん 唐澤とらひ とうとう

十

唐澤とらひ とうとう へん 唐澤とらひ とうとう

ねど けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
て とうとう けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
とうとう けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
きりやう けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
て とうとう けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
十日づり けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
これより けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる

ケイコウの ことなる ねど けいこうの ことなる
方けい けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
も けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
うけあひ けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
う。これより けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる

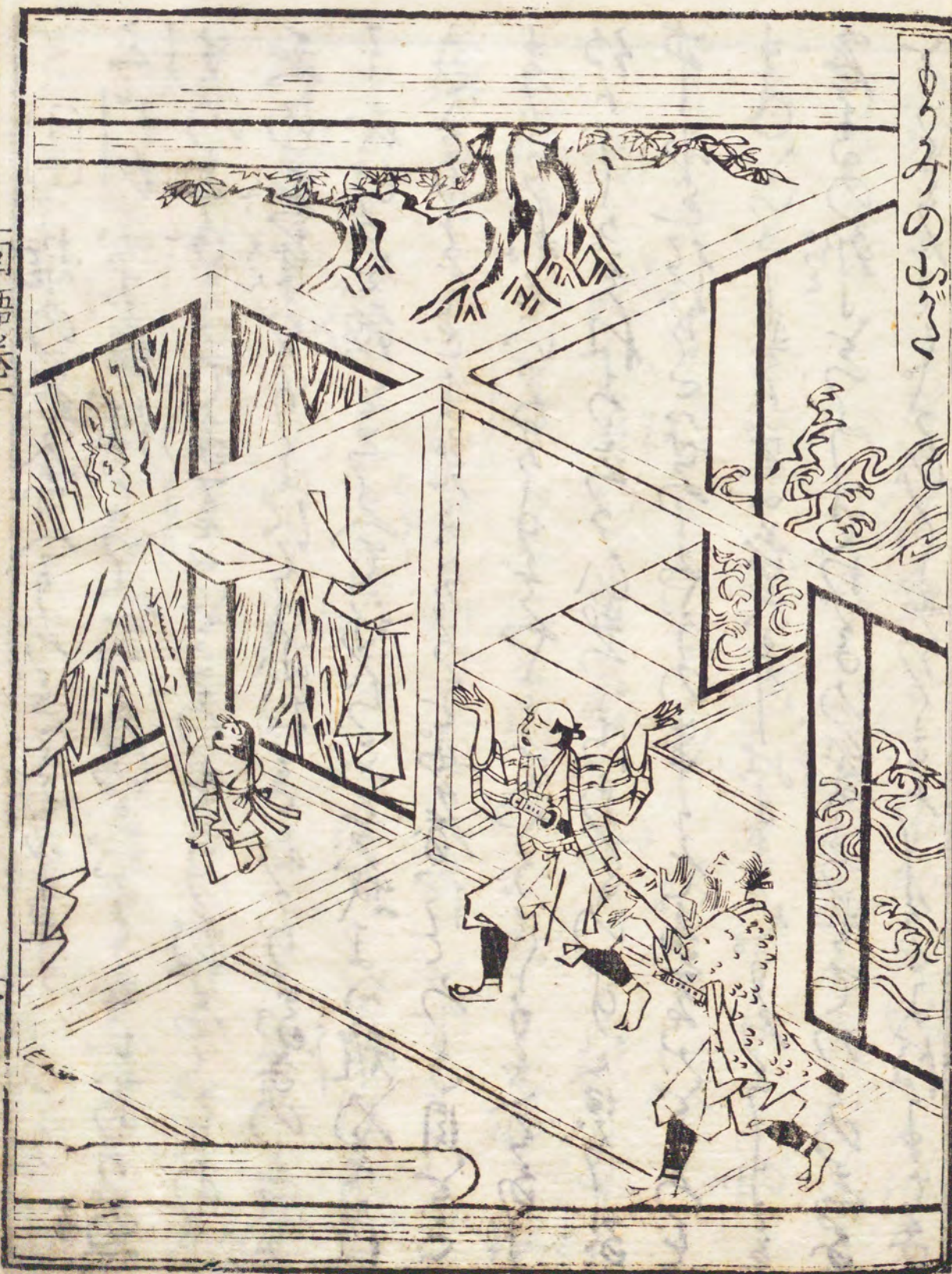
土

赤子の ことなる ねど けいこうの ことなる

ねど けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
の 毛 けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
ひあ けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
あり 赤田 けいこうの ことなる ねど けいこうの ことなる
げん 寛永十七年 とうとう けいこうの ことなる

うゝにふじはあやうき人ひきつゝいふうゝ
 中とていふこととて男はなめいふれど
 所は父のふりてまんて商人を打つてうゝ
 美しうはあやうき人あてにけふ部屋を閑
 まるあやうき人あてにけふ部屋を閑
 ていふあやうき人あてにけふ部屋を閑
 わり戒名年号月日とておぼえり。父やとていふ
 やう我下うゝは総商人すうまて養育とていふ
 とて総とていふておぼえり。あやうき人あてに
 中とていふこととて男はなめいふれど
 所は父のふりてまんて商人を打つてうゝ
 美しうはあやうき人あてにけふ部屋を閑
 まるあやうき人あてにけふ部屋を閑
 ていふあやうき人あてにけふ部屋を閑

もうみのぶ



あつてつひづつと後物とせうづらうに外へ

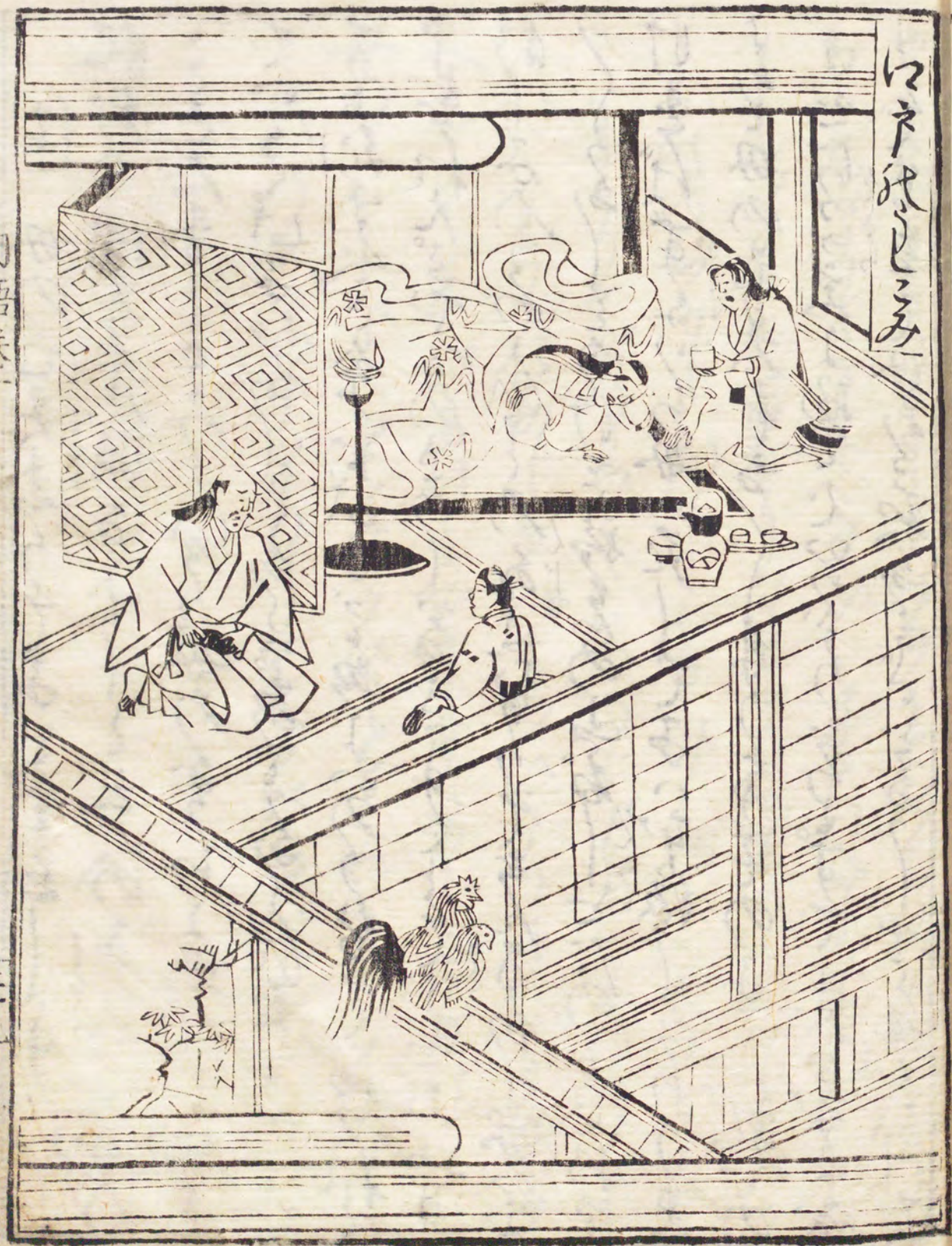
(其)

夫乃亡矣其病と療治しむる事

たあ一ぼた牛ゆり。春まにとつ不祥傍のありし
世業のとも父よあいら九業の時母大抵病
をうづひすでよしあ。あるに及ぶこと。父の亡
後中一よま後いこことるも入いこくうて
まの細目よりあきこつたなり肉入て春籠よりい
てまける我のあつもありまれば。こ方よ春籠
ゆりし也。母屋の外へ傍より。流とて。是
夫のれまづの也大形に死す。こよまにまづげこ
ま。母が死し。こ何とるる。こも母のあつにゆり

お孫じとつたす業あり。父の亡矣とや。今ハワ
業とあつて。こ病つひまう。いづれハ作
店の業とあつた。婦人のこり。こや。こい。まは
父の亡矣と孫とつた。こも。こま。こい。大
半。れまづひま。こり。い。あ。ハ。勿。祈。あ。ま。
づ。こ。の。死。と。こ。ま。孫。ま。こ。り。お。ぼ。
入。こ。ま。孫。の。ま。せ。こ。こ。む。こ。の。い。こ。孫。
わ。こ。ゆ。り。こ。お。こ。の。ま。せ。こ。こ。の。ま。
と。の。ら。吾。孫。こ。の。海。こ。の。こ。ま。け。こ。り。こ。
や。ま。い。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
こ。の。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。

だもこころし。衣のふゆびりまなりあるをうけそり
 ぞと又二階へ寝るふゆなりとつづひぬとこ
 尸とやうだとは人なるまよふく父の海をぬ
 履のあうとだうぬさうありといふ母の標葉との
 きてまとはうらひやくとてうさやまわむ
 おうりりあをわく。こね乃子の別づりうま
 おひ幸後かんごうりかて二人のきもうちせうり
 わさてうやくぬさていありあつてう人ううら茶と
 煮てまつせふれどくいしむとさくさくさく
 まうなりいさる。寛永の末の年は戸鉄炮町
 ころまらり



いへはしとみ

因果物語二目録

- 一 姫て教をい女主の女房とありてありき
- 二 人よ金かゝる俗所にて早美せられし
- 三 金に執心して死に就けり
- 四 ち屋敷とある所にて代に死にたり
- 五 且おのふと争ひて死に就けり
- 六 女乃て其をい同善とあり
- 七 怪貪る人死にてうになり
- 八 乞食と切たれしけいきあり
- 九 盲目死にて福人の子とあり
- 十 善く養生の日とあり
- 十一 師の房死にて後子とあり

人いけおとそとこれゆはきくはに思ふなり
 一のともさやの座るるに看るるに飛騨とま
 てつぎねをさげて死するはよのきり悪疾のこ
 とそこのゆづりともまづそ目湯へてゆつと
 永女年八月のま也これに居るそとるあめあや
 ぶし月のゆは初のは年あつて夢にきりなる
 海にぬそつとま也あつとととゆめ
 くれら女あまこつととととととととととと
 かきくおつととととととととととととととと
 居るにけつととととととととととととととと
 とととととととととととととととととととと
 とととととととととととととととととととと



こつ国

とねてうづいさるにその日のくれしころのころ
 まつり一五日うづいさるまよふころしき
 中後とおめしき九日ハ血腫とて先て卒都
 候とてさかり所さよはりし郎嬢とて血腫と
 おさえらやうまうりあめの目にあさるなりぬ
 けらあもたらすこと卒後しなり

又

長船と後ひる毛むね船けり事
 東にひる毛むね船あり。毛むね船とて毛む
 船の長毛むね船あり。毛むね船とて毛む
 大洞とて毛むね船あり。毛むね船とて毛む
 毛むね船とて毛むね船あり。毛むね船とて毛む
 毛むね船とて毛むね船あり。毛むね船とて毛む
 毛むね船とて毛むね船あり。毛むね船とて毛む
 毛むね船とて毛むね船あり。毛むね船とて毛む

通の金一



[illegible]

(九) 盲國新して、盲人の子ふしわす
 義徳固ちば乃、新しふ、眼後とて、様あり、ばうに佛
 都、とてな、座の、ふき、なりふ、若初、也、然、若
 とあ、の、とめ、も、の、病、も、と、そ、の、門、も、立、つ、り、か
 と、都、い、あ、る、ま、け、ら、が、う、お、の、國、侯、家、の、都、よ
 て、大、福、人、の、あ、る、ま、ら、ば、ま、う、ま、ら、は、く、て、日、が、ら、ま、よ
 と、と、あ、る、ま、ら、て、ひ、に、目、の、た、い、く、そ、と、う、に、の、心
 う、濃、初、ま、は、都、明、心、院、佛、都、と、名、書、あ、る、ま、ら、に
 わ、り、う、て、秀、方、あ、る、な、る、人、と、う、り、て、心、の、う、て、を、け

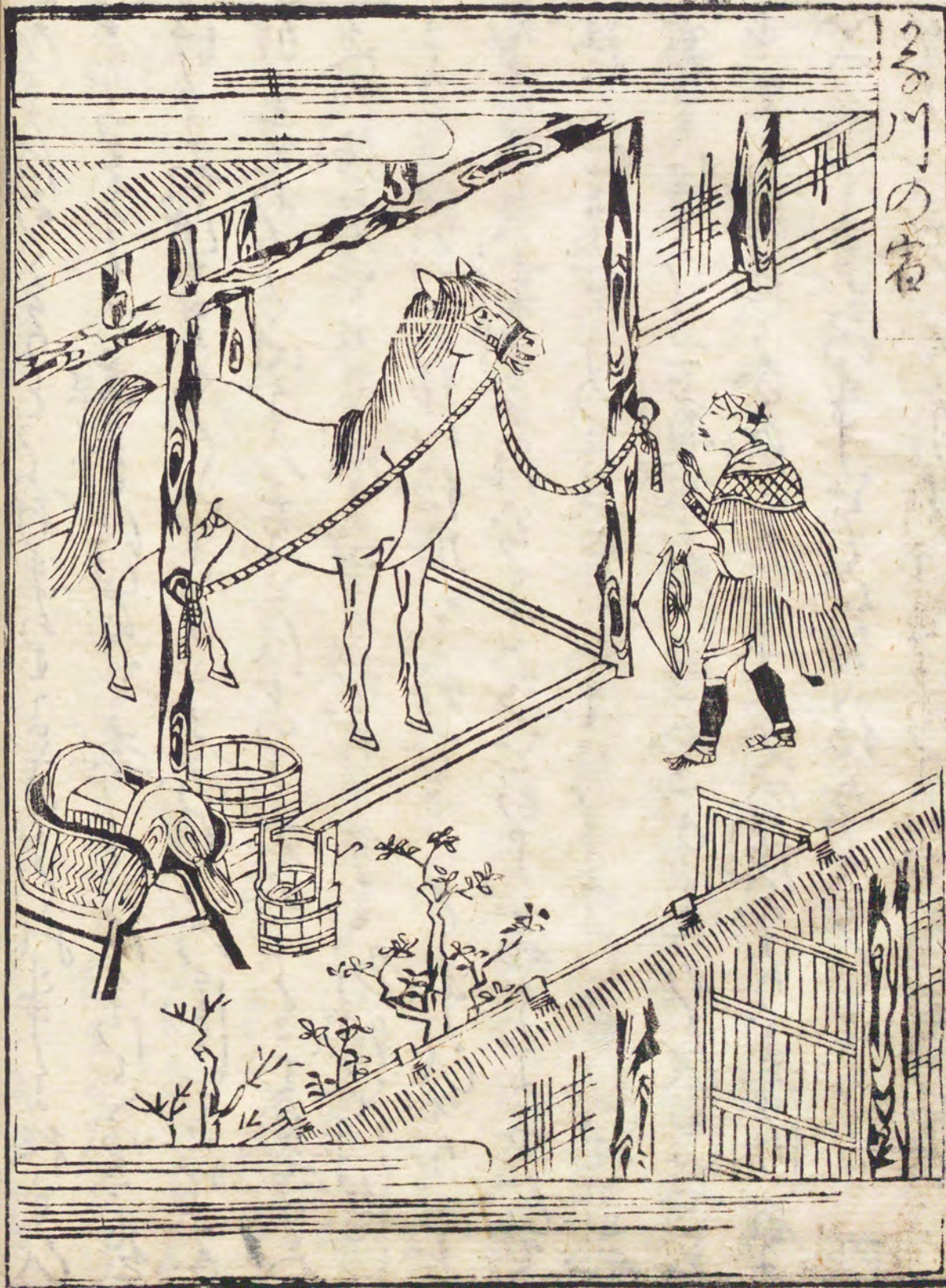
決つて中子より一たりとて乃納おしむやう。
 それに年々^{いさ}仲よくおれとて人より立りたる所は
 つい中子にされざるあつたふりなりゆへんといふ
 事と多れど。ゆへにまづ今一年也とてすおつちを元
 判^{うけ}紙おされぬ。あまは春^{はる}の字と。芳^{よし}全^{けん}乃^のまの字
 字ととりあつて吾^{われ}まゝとつまじけり。かくて吾^{われ}ま
 二三年^{ふた}通^と来^きてゆりも。あひこは芳^{よし}全^{けん}ひあ
 制^{せい}より。唐^{たう}室^{しつ}秘^ひなることと。とお通^とる。乃^の中^{ちゆう}子^し春^{はる}
 たり。ととりあつたあは吾^{われ}芳^{よし}全^{けん}ひとて秘^ひなるをえ
 とし。とて實^{じつ}あるが。とておわをゆり。あま二周^{ふた}忌^き
 にはちりて。乃^の芳^{よし}全^{けん}ひとて。夏^{なつ}あつて。あまなり。あ
 凡^ふそなりて。吾^{われ}まの額^{がく}とらけり。あま毎^{まい}水^{みづ}也^{なり}。とて。とて。

人々を以て之れと云ふは、
 うゝやうひともいへば、
 くよともいへる。いづれ
 らとあつて、吾々が同
 ひたり。げんご吾々のや
 うたより。さういふもの
 神さうれ。寛政八年の
 師しあり親おやきり。芳金が
 ら。思おもふもあらば、
 しふりむらじやうのもの
 どいどいのづゝ天竺の

十一

うさぎとわかくとほりーす

多川の宿



十

(十二) 学志の傷ふにやとありける事
 我れは戸ある後林の学統なり。実お辱とて怒るま
 事あり言懐ふふとわたり。は勿板本の志清
 派う入ては後といふなり。は後今やまひたうし
 後うとぞれと信ふゆりてわくのあは宿の
 事てゆり事とて所。後えするや。は傷傷と
 りづらひなり。本目よりとてやうく本後て傷
 ひたるとろふ。だらま化し。畢丸おらてや。取
 ましと。事と。智事と。と。後と。み。は。ま。う。也
 て。是。純。才。の。女。と。み。たり。の。あ。く。後。と。や。し。酒。を
 の。苦。屋。と。み。たり。志。る。に。東。嶺。山。の。学。社。を。人。同。なり。
 海。と。み。たり。の。酒。を。は。ま。たり。て。酒。の。こ。う。と。は。み。たり。

存ひ物に極むる事。中く物をれども物りも
 あゝかろきむじあゝくぬけきハ葬礼とんとて棺
 うさかけえや。火葬ありてあづりてつるうさ
 かあゝあゝうは是首と」ちり。あゝうけ
 とさう。又かのはとゆて候てゐるゝ先。大
 けゝ大いおなり。まほはまゝのゝ先。とあ
 どりやづりける。と卒のゝと建てる。作
 極う。これらと事候よ。うり西候の事也

犬

能物と想ふ
—
冠とけいふ

寛永年中此事あり。永元等の訃あり。憐況と云
傷あり。位^え施^せともねきねとね^い延^{えん}と云あり。けつがねい
どもにねと云。一と云。神^{かみ}二来りて。憐^{れん}況^{きやう}と云。ひま

夢うゝ見たり。まてをさうくひて。通氣の傷二
 人とれきて一而別々ある時二人の心ありてづえい
 るとちたり。二人の傷を因とさゆけり。心のつや
 う。傷の層まう杖あひふれとふてならまうたり
 懐妊が獨のわいとちとりあつとねまたどう
 日ひくくふらふふ金銀と傷あうとちり流り
 たり。けく通氣の傷二人ちりまう。おは徳義とあ
 たり。通氣の傷も終り其礼をびて二人は血と
 づひ。一人を病病うあせまてつ井よ二人あつた
 ちり。憐れはすま年獨りまて。昔痛うまうあつて
 死にけり

十九

金に執心をし信を失ふて来つゝす



